

集会所だった空き家を陶芸の作業場に活用▼



令和4年に空き家を購入した
さわだ ゆういちろう
澤田 勇一朗さん（小池在住）



自分だけの理想の作業場へ

陶芸家としての創作活動に必要な作業場を探していた澤田さん。理想を実現するうえで、大きな助けとなったのが空き家バンクです。

「知人が他市の空き家バンクをうまく活用していたので、燕市にも同様の仕組みがあるのでは」と思い、インターネットで調べてみました。ホームページを見てみると、地域やこだわりなど、条件で絞り込める検索機能があり、物件探しもスムーズに進みました」

なぜ空き家を活用しようと思ったのか伺いました。

「空き家は新築物件と比べて、購入費が抑えられるからです。その分、改修に費用をかけ、予算内で望んでいた作業場を手に入れることができました。最近では、理想の作業場に近づけるため、DIYを楽しんでいます」

燕市空き家・空き地活用バンク

空き家バンクは空き家の所有者と空き家を活用したい人をつなぐ役割を担っています。

平成24年3月からスタートし、令和7年までの約13年間で、登録物件の**半数以上**が売買・賃貸契約を成約させています！

空き家バンク 登録総数	空き家バンク 成約数
375件	222件

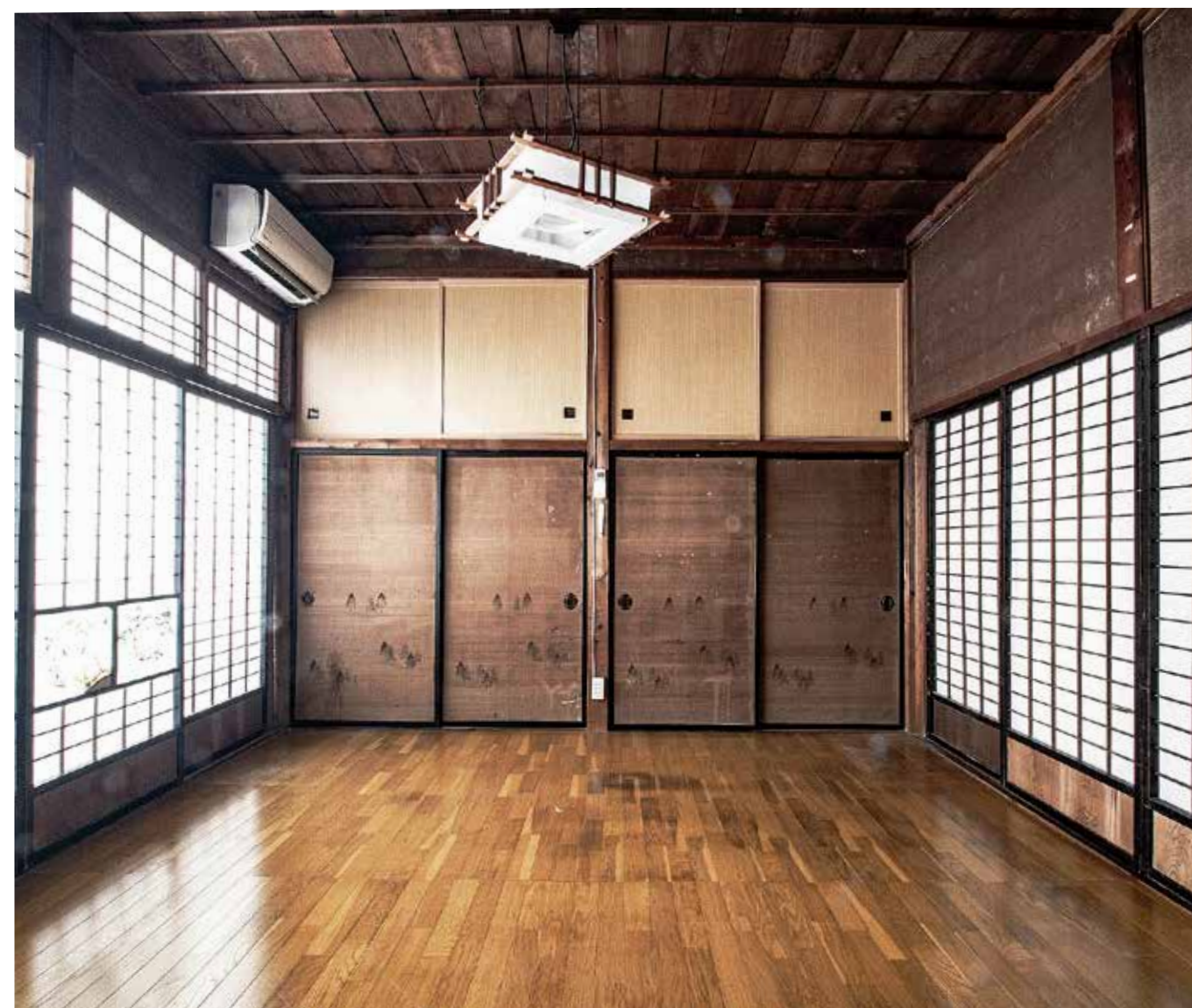
※件数は令和7年5月末時点

空き家バンクに関する詳細はこちら▶



空き家を活かすために、できること

空き家所有者と空き家を活用したい人をつなぐ「燕市空き家・空き地活用バンク」（以下、「空き家バンク」と）と空き家バンクで空き家を購入した人の体験談を紹介します。



空き家で困らないために

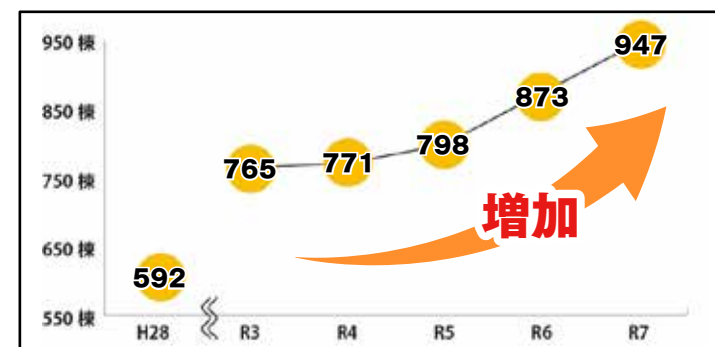
全国各地で課題となっている空き家問題。令和7年4月時点の燕市内の空き家棟数は947棟。平成28年4月時点と比べると、10年で355棟増加しています。直近5年の空き家棟数の推移を見ても、年々増加傾向となっています。増加し続ける空き家の中には、適切な管理がなされず、放置されているものも多く存在します。

空き家の増加原因は、人口減少や相続後の建物の維持管理不足などがあげられます。建物を相続したもの、遠方に住んでいるなどの理由で管理が行き届かず、そのまま放置され、危険な状態になってしまうケースもあります。空き家を放置すると、法的な問題、経済的な損失、近隣住民への影響など、多岐にわたる問題が生じるおそれがあります。

「活かす」空き家に

こうした事態を防ぐため、所有者は家族とよく話し合い、空き家を今後どうしていくのか、早めに方針を決めておくことが重要です。

ぜひこの機会に空き家を含め、所有する財産について考えてみませんか。



▲燕市内の空き家棟数の推移

